



北 中 だ よ り

学校教育目標「自ら考え なかまと磨き合う 北中」

菊池北中学校
学校だより
No15
文責 芹川博文
7月19日(金)

「変わる勇氣と、変わり続ける努力」

～ 「本物」に学ぶ授業 バドミントン 田中 湧士 選手を迎えて ～

今日、田中選手に初めてお会いして一番に思ったことは、「オーラが違うな」と思いました。日本代表としての覚悟や、プレッシャーをたくさん受けているというのが、田中選手の背中を見て感じました。私はこの学習を通して、「変わり続ける努力」を知ったので、今よりも、もっともっと努力して、頑張りたいです。(1年生)

私は、「成功するまで努力するか、しないか」という言葉が印象に残りました。また、話を聞くうちに、成功する人は、他の人より、はるかに多く失敗しているんだということを知り、自分の励みになりました。今日は本当にありがとうございました。体調に気を付けて頑張ってください。(2年生)

上の言葉は、授業後のお礼を兼ねた生徒の感想です。7月18日(木)、忙しい合間を調整して、バドミントンの田中 湧士 選手に来ていただき、1、2年生に向けて話と実演、そして、たくさんの質問に答えてもらいました。

「変わるためには、それまでの自分を一度否定しなければならず、正直苦しいです。しかし、そこから努力を重ねることで変わることができます」との言葉。大学の時のインカレ優勝や、海外の国際大会の優勝経験を経て、更なる高みをを目指す言葉の重みを感じました。

また、技術やメンタル、食事など様々な生徒の質問に対して丁寧に答える姿に、10年前、菊池南中学時代の彼の姿と重なりました。

「あれだけ質問の手が上がると嬉しいですね」とは、体育館を出た後の田中選手の第一声。「本物」に触れた生徒たちの表情も輝いていました。

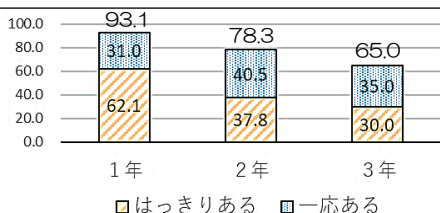


夢や目標に挑戦する夏、人と心を通わせる夏に

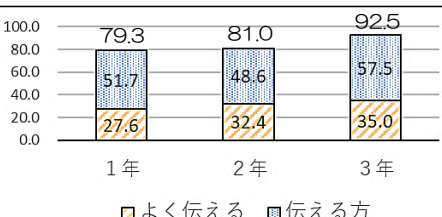
～ 明日からの夏休み 「本・人・旅」に触れ、広い視野で学び取る夏に ～

明日から37日間の夏休みに入ります。当然「しなければならないこと」はありますが、それも含めて、自己コントロールの力を鍛える絶好のチャンスと捉え、夢や目標に向けて挑戦してほしいと

将来、あんな人になりたい、こんなことがしたい、こんな仕事に就きたいという、夢や目標がありますか。



友だちが喜んでいる時は一緒に喜び、悲しんでいる時は一緒に悲しむ、その思いを言葉や体で伝える方ですか。



期待します。左は北中生徒のアンケート結果です。夢の実現や、思いの共有などに、「本・人・旅」がヒントになるかもしれません。

特別な夏となる3年生も含めて、一人一人が広い視野で、学び取る夏にしてほしいと願っています。

「おまけ」の文化と心のあたたかさ

～ 生活の中で息づいていた 共に生きる力と 命の守り方 ～

「昔は遊ぶ時も、よう『おまけ』ばしよったですもん」とは、毎日学校近くの交差点で見守りをしてくださった高野瀬の木場区長の言葉です。「昔は遊びも縦割りだった。小さい子には、それなりの『おまけ』(特別ルール)を自分たちで決めて遊んでいた。上級生が、その日のメンバーを見て、「ええあんばい」にしてみんなで遊んでいた」とのことでした。私にも思い当たることがあり、懐かしくお話を伺いました。

私の頃までは(時代的にギリギリ?)、地区によっては川も「正式な」泳ぐ場所でした。名前を書いたかまぼこ板を監視員さんに渡して泳ぎました。岩場からの飛び込み方、渦を巻いている場所、あまり深く潜ると急に水が冷たくなることなど、上級生から「命の守り方」も学びました。

時代と共に子どもたちを取り巻く環境は大きく変わりました。外遊びは熱中症の危険、自分たちでの川遊びは絶対禁止の時代です。それでも見渡すと、この自然豊かな北中校区、異学年でも仲の良い北中生徒。

もしかしたら、日常の「当たり前」の中に、実は大きなヒントがあるのかもしれない。生徒たちが大人になった時、「子どもの頃は・・・」と振り返る「共に生きる力」や「命を守る力」が何なのか。意識して大切にしたいものです。